2006年度三鷹市立中原小学校キャリア教育事業最終評価報告書

2007年3月18日

評価担当者：朝川哲司

最終評価項目
1. 学習プログラムの目的（習得するべきスキル、能力等の達成目標など）が、人材育成に関する産業界のニーズに即したものであり、実社会で活かされる教育内容となっているかどうか。
・ 三鷹市立中原小学校にて実施されたキャリア教育事業におけるアニメーション制作の取り組みでは、同事業の学習プログラムの目的として、昨年度に引き続きこれからの情報化社会に生きる職業人に求められる「情報コミュニケーション能力の育成」を掲げていたが、同目的に沿う形での授業設計として、二度の発表会による学習成果の公開の機会の提供、そして毎回の取材活動を通じて、自ずと情報コミュニケーション能力が育まれる仕組み（学習的配慮）が組み込まれることで、参加児童自身が内発的に同能力の向上を求める姿がしばし観察された。以上の観点から鑑みて、三鷹市立中原小学校でのキャリア教育事業は、十分にその学習プログラムの目的が、実社会で活かされる教育内容となっていた。 ・ また、本年度は、「情報コミュニケーション能力の育成」の一歩先として、作業の成果物（クレイ・アニメーション作品、アニメーション調査研究報告、取材活動報告）に関して、観客（他の児童）の理解を促すための工夫と苦心を意識的に重ねる児童の様子が度々観察された。自己満足だけに終わるのではなく、キャリア教育においてアニメーションを学ぶ以上、他者からの評価と理解を得ることが大切であることを理解する姿が見られたことは、明らかに参加児童の中で、創造的な仕事に対するプロフェッショナルな意識が芽生えたことを示している。
2. 学習プログラムの内容が、単なる職場体験、職場見学にとどまらず、事前学習や事後学習、体験学習などが取り入られるなど、体系的かつ効果的な内容であるか。
・ 昨年度に引き続いてのアニメーション制作を通じたキャリア教育事業の実施だっただけに、昨年度の経験を踏まえて、「作成チーム」「追及チーム」「取材チーム」の学習形態を用意したが、どの学習形態を児童が選択したとしても、現場担当の教員と教育学の専門家との緊密な連携によって、入念に学習項目が事前に設定されていたため、どの参加児童にとっても「情報コミュニケーション能力の育成」という目的に沿った学習活動を享受する様子が観察されたことから、本年度の学習プログラムの内容及び学習形態が、体系的かつ効果的な内容であったといえよう。 ・ また、取材チームという学習形態を加えることで、作成チーム及び追及チームの日々の活動が毎回取材報告として記録されるだけではなく、それぞれのチーム内で習得した知見やスキルが、参加児童全体で共有化されることで、学習の二重化を実現していたこと

から鑑みても、本年度の学習プログラムの内容が十分に体系的なものであったことを証明している。
3. 地域において、学校、ＰＴＡ、教育委員会、産業界、行政機関など関係機関による協力体制が構築されるなど、事業の一体的かつ効果的な実施を図るための実施体制が確保されているか。
・ 昨年度に引き続いてのキャリア教育事業の取り組みであったため、三鷹市立中原小学校での実施体制は、同校の担当教員を先頭に積極的に同事業を取り組む体制が整えられており、昨年度と同様に、良い意味で地域の枠組みとしてのＰＴＡや教育委員会、そして三鷹市政が、事務連絡や外部との折衝などの裏方に徹しながら、同校の取り組みを強力に支えている様子が観察された。 ・ また、本年度の試みとして、地域としてキャリア教育の推進基盤を築くために、CCP研究会というものが適宜実施され、三鷹市内でキャリア教育事業に参加した学校の代表者（現場の担当教員が中心）が、相互にこれまでの実践活動の中から得られた知見や経験の交換ができる場を設けていたことから判断しても、事業の一体的かつ効果的な実施を図るための内外の体制が十分に確保されていた。 ・ 残念な点としては、昨年度のセル画を用いたフル・アニメーション制作では、参加児童の保護者も一緒になって同学習活動に関与する様子がしばし観察され、そのことにより地域内でのキャリア教育に対する認識と理解を深めることにつながっていたが、本年度は、クレイ・アニメーションという形式を選択したため、地域内にあるアニメーション制作会社の訪問の際と最終的な発表会の機会以外に、この学習活動に保護者が参画する機会が少なかったことが惜しまれるところである。 ・ アニメーション制作会社による地域貢献に関しては、職場訪問の機会を提供することを通じて、同校の参加児童のアニメーションに対するより深い理解を促すことに大きく寄与することにつながったことは特筆される。
4. 事業の実施主体である民間コーディネーターが、学校、ＰＴＡ、教育委員会、産業界、行政機関など、関係機関を十分にコーディネートする能力を有しており、かつ、具体的な事業遂行能力を有しているか。
・ 三鷹市立中原小学校におけるキャリア教育事業では、現場の参加児童と担当教員を中心に据えて、その周辺を学校機関、地域行政、外部協力企業、民間コーディネーターの各々が支える仕組みが十分に整えられており、その外部からの支援の仕組みを調整する役割に徹しきった民間コーディネーターの卓越した事業遂行能力は高く評価される。 ・ また、本年度では、現場の担当教員の自発的な活動をできるだけ優先する様子が観察され、一方向的に支援を行うだけでなく、現場の状況に敏感に反応しながら、引くときは引くような民間コーディネーターによる高い調整能力が発揮される場面も見られた。 ・ 唯一の課題としては、昨年度と同様に、同事業の内外の関係者全員の日程調整などに費やされる時間と労力を民間コーディネーターが負担する割合が大きかったものと推察

されるため、可能であればキャリア教育事業全体で、ASP のような形式で簡易なプロジェクト管理ツール（カレンダー機能、To Do 機能、そして電子メールによるリマインダー機能などで十分）を提供していくことが提案される。
5. 本事業終了後において、学習プログラムの継続的な実施のための自立化の絵姿が明確になっているか。
・ 学習プログラムとして単独に判断した場合に、今回の三鷹市立中原小学校にて実施されたアニメーション制作を通じたキャリア教育事業は、十分な学習成果を残しており、継続に値するプログラムであると評価できる。特に本年度は、民間コーディネーターを中心とした外部からの惜しみない支援と伴に、現場の担当教員の士気が非常に高く、かつ毎回の活動が入念に準備されていた様子が観察されたことから、中原小学校でのキャリア教育事業の自立化の道は開けてきているものと考えられる。 ・ 一方で、来年度以降については、参加児童が代替わりをし、また現場の担当教員についても入れ替わる可能性（転勤や他学年を受け持つなど）もあり、この三年目の段階で、本年度までの成果と実績（経験から得られた知見や知恵）が、如何に次年度に引き継がれるか次第で、本当に同校にて自立化が実現されるかどうかが明確になっていくであろう。そこで、本年度以上に次年度においては、引継ぎの部分に対して、外部からの可能な限りの支援を同校に対して行っていくことが望まれる。また、同時に本年度の同事業の成果に基づいて、産業界を含めた地域内での連携をより強固にしていくことも期待される。